

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300051		
法人名	株式会社 おいでの里		
事業所名	グループホーム スローシティー ピアノ	ユニット名	ソナタ
所在地	宮崎県延岡市平原町1丁目854-1		
自己評価作成日	平成26年1月27日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagokensaku.in/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kanistrue&jisyosyoCd=4590300051-00&PrefCd=45&Versign=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の定例会にて職員間の話し合いを設け理念を共有し、利用者様のニーズに基づきチームケアに努めている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行なわれる防災・避難訓練に参加したり、当施設で行なう夏祭り等に参加していただき地域との交流に努めている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同市内の大学との交流を行ない、研修生の受け入れや、定期的な研修に参加、また、認知症ケア指導管理士の資格取得に努めている。今後、ご家族や地域の方に向け、活かしていく。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回第二木曜日に当施設で開催。地域からの情報や、当施設からの情報を共有し合い、今後のサービス向上について指導いただいている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新規開設に伴い、市町村担当者に電話や訪問を繰り返し理解できない内容や、不十分な内容の指示等を受け、相談など行なっている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	積極的に研修などに参加し、身体拘束にならない介護を共通理解し合い、チームケアに努めている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、職員同士声を掛け合い、虐待にならないよう介護に努める。また、日頃の介護が虐待にならぬよう、定例会等で話し合いの場を設けている。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員によりいまだ理解できてない人もいる。勉強会などを開催し、今後、理解者を増やし活用して行けるようにしていきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、当施設の見学や取り組み、運営の内容などを時間をかけて説明し、疑問点には事細かに説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会を通し、意見を頂くことで外部へ表している。また、家族から随時対応していけるようにしている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは、気付いた事など室長に上げてもらい管理者に伝えている。また、定例会にて意見交換を行ない反映していつている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規、パートの社員が雇用されている。やりがいや向上心が持てるような環境作りを努力している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の定例会での勉強会や研修に全員で受ける機会を設けている。また、順番に外部の研修に参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当会社の関連事業所との交流は徐々に増えてきているが、外部との交流は今現在出来ていないので今後交流の場を作り、サービスの質の向上に繋げていきたい。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	馴染みの関係を大切にし、受容・共感・傾聴に努めている。出来る限り一対一で話を聴き、利用者様がありのままを出せるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何気ない会話から、信頼関係づくりに努め、相談や要望等を聴き支援に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族が求めている事をしっかりと見だし、見極め、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を十分に生かし、できることはできる限り、利用者様と一緒にこなすようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしなが、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係の理解に努めている。家族と職員が日頃から交流を深める事により、本人と家族の関係が深まる様に努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節を等して、馴染みの場所にドライブに行ったり、ホームに馴染みの方々に来所して頂き本人の馴染みの関係の継続に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動を通して、利用者様同士が協力して作品を作ったり、自然と交流が出来、楽しんで頂けるように努めている。			

宮崎県延岡市 グループホームスローシティピアノ(ソナタ)

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	悩み・相談があるときは、支援していけるように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様1人ひとりの思いに目をやり、共通理解をするため、話し合いをするなど職員全員で本人を理解するように努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時や資料などで、本人の生活歴を理解し、馴染みの暮らしが出来るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の朝礼や介護記録、その日のバイタル等で健康管理を行ない現状把握に努める。また、申し送り等で、職員間の情報の交換を行なっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見の出しやすいBS法にて本人、家族の求めている介護について意見を出し合う。その意見を基に介護計画を作成し支援に努めている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にて一日の様子を記録し、センター方式を用いり、一週間の記録をしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況把握に努め、それに対して適切な支援が出来るように努めている。			

宮崎県延岡市 グループホームスローシティピアノ(ソナタ)

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の大学生や同市のボランティア団体の協力により、祭りや体操などの触れ合い、演芸等を楽しんでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、月二回の訪問診療で馴染みの関係を築いている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が日常の健康管理を行なう中で、状況の変化を、管理者・担当看護師に報告している。また、24時間対応での医療連携に取り組んでいる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際、家族や病院関係者と密に連絡をとり情報交換や相談に努めている。退院した際は、柔軟な環境整備が出来るよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者や家族の意向、希望に沿えるよう、医療・介護がチームとして支援できるよう取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え、応急手当の訓練、施設内研修に取り組んでいる。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署協力のもと、年二回以上さまざまな災害に対応した避難訓練を行なっている。また、地域での避難訓練にも参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの尊厳に努めている。その日その時の状態にも配慮しながらその人にあつた対応を心掛けている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が自己決定できるよう選択してもらったり、職員が働きかけている。また、環境づくりにも努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせながら支援している。また、今後は「待つ介護」に取り組んでいきたい。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月の活動予定の中に、おしゃれの日を作り女性らしさ、男性らしさが出せるように努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に洋菓子や、昔ながらのお菓子作りを行なっている。また、声掛けにて一緒に食事を作ったり、後片付けを行なっている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、一日の水分摂取量のチェックを行ない、その人その人にあつた、栄養バランスを考え、食べやすい物を提供している。また、水分を摂取した方がらない方にはゼリー等で配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアを実施している。1人で出来ない方には一部介助で口腔内の清潔保持に努めている。また、夜間入れ歯の洗浄も行なっている。			

宮崎県延岡市 グループホームスローシティピアノ(ソナタ)

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録の確認をし、本人の排泄パターンを把握しながら、声掛け・誘導・介助を行っている。習慣化することで、自立支援に心掛けている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録にて、本人の排泄パターンを把握しながら、水分摂取等にも配慮し、適度な運動も取り入れ便秘予防に取り組んでいる。便秘が続く場合、医師の指示のもと便秘薬を使用している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックやその日の体調、気分配慮し、楽しんで入浴できるよう環境整備も行ない、その人にあつた支援を行なっている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が休みたいときは居室で休んでもらったり、その日その時に応じて対応している。また、夜間・季節に合わせて温度の調整にも配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携により薬の変更や留意事項等は、申し送りや業務日誌に記載し、職員間の周知徹底を行なっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事業務などを手伝ってもらい、役割をもって過ごせるように支援している。また、毎月の活動予定の作成で運動・回想療法等を行なう中で刺激や楽しみを持ってもらえるような機会を提供している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望を把握し、なるべく希望に沿えるよう、家族の協力を得ながら外出の機会を持ち、気持ちの安定化を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナタ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で一時預りとして金庫に保管し、必要に応じて職員が購入したり、小額のお金を持って一緒に買い物に行き本人の希望の物を必要な分買われるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話等のやり取りを行なっている。その際は、プライバシーにも配慮し支援を行なっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は、ルールカーテンにて光の調整。夜間は間接照明を利用している。また、温度の調節に配慮し利用者様に快適に過ごしてもらえるように工夫している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・椅子の他にソファもあり、気の合う利用者様同士ゆっくり話しながら過ごせるようにしている。また、廊下に椅子を設置し、日に当たりながらゆっくりと過ごせるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の馴染みの物や好みの物、家族の写真等を持参してもらい、生活している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、手摺りの設置やバリアフリーとなっている。タイプの違うトイレも配置され、分かりやすく工夫し、利用者様が認識しやすく自立した生活が送れるような環境作りに取り組んでいる。			